

119番通報のポイントと伝えるべきこと

① 「救急です」

119番につながったら、まずはっきり「にじいろ保育園です」「救急です」と

② 場所（住所）を告げる

住所： 東郷町清水一丁目10番地4 「にじいろ保育園」

③ 事故の状況を説明する

「誰が」「どうしたか」を正確にわかりやすく伝える

例：「〇時〇分ごろ、×歳児が1人、高さ1,5メートルの滑り台から落ちました。動きません。泣いてもいません。どこを打ったかわかりません。」

「〇時〇分ごろ、×歳児が給食中に〇〇を（何かを）喉に詰ませました。唇が青くなってきました。」

④ 通報者の氏名と連絡先を告げる

「私の名前は〇〇です。園の電話番号は0561-56-2216」

⑤ 通報後は速やかに全職員へ共有する。

⑥ 携帯でかけた場合通報後はしばらく電源を切らない。

通報を処理するセンターから確認の電話がくる場合があるため、通報後しばらく電源は切らないこと。

⑦ 救急車を迎える。

道路に出て、救急車に合図をだす。すでに暗くなっている場合は懐中電灯をもって出て救急車に合図する。

救命処置

発見者、直ちにその場で対応開始！

反応を見る

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても、
何らかの応答や、しぐさがなければ「反応なし」とみなす

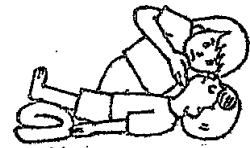


周りに知らせる！119番通報！※笛などで応援要請、気道確保

呼吸を見る

呼吸なし

呼吸をしていないとき、即座にその場で人工呼吸！
反応がなく、呼吸がないか、死線期呼吸（「口をパクパク」「あえぐような」呼吸）が認められる場合は心停止と判断、心肺蘇生（CPR）の適応と判断し、直ちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する。
※睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断。口腔内に何もなければ確認。



心肺蘇生（CPR）

呼吸が重要！

胸骨圧迫！

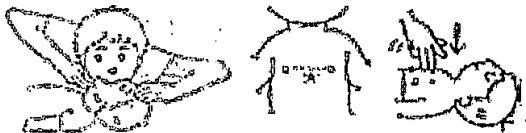
1歳以上



鼻をつまんで人工呼吸

- 片手の付け根で
- 乳首を結ぶ線の真ん中
- 胸の暑さ約1/3くぼむまで
- すくなくとも100~120/分

1歳未満



- 中指・薬指の2本で
- 乳頭を結ぶ線の少し下
- 胸の暑さの約1/3くぼむまで
- すくなくとも100~120/分

口鼻人工呼吸（口鼻一緒に）胸が軽く膨らむ程度の量で行う

AED装着



電極パッド装着※電極パッドを張り付けるときも、できるだけ胸骨圧迫を継続する。



AEDのメッセージに従う

必要あり

「必要」と音声が出たら、音声に従って電気ショックボタンを押す。
その後、心肺蘇生を再開する。

必要なし

「不要」と音声が出たら、直ちに心肺蘇生を再開する。

緊急時役割分担

発見者

- 子供から離れず観察及び症状記録
- 助けを呼び、人を集める
- 職員Aに「準備」・職員Bに「連絡」を依頼
- 管理者が到達するまでリーダー代行となる

職員A「準備」

- AEDの準備
- 症状の記録（随時）
- 心肺蘇生やAEDの使用

職員B「連絡」

- 救急車を要請する（119番通報）
- 管理者を呼ぶ
- 保護者への連絡
- さらに人を集める
- 救急車の誘導

管理・監督者（園長など）

- 現場に到着次第、リーダーとなる
- それぞれの役割の確認及び指示

職員C

- 他の子どもの対応

※救急隊が到着したら、報告する。

※職員Cがない場合も予想できる。Cがない場合を想定してA、Bの職員で対応できるようにする。

※各々の役割分担を確認し、年2、3回は訓練する。